

Leading Edge Technology Showcase
For the artistic expressions of the future

第12回文化庁メディア芸術祭協賛展

先端技術ショーケース'09

未来のアート表現のために

会場：国立新美術館 企画展示室2E（文化庁メディア芸術祭会場内）

会期：2009年2月4日(水)～2月15日(日) 10:00～18:00（入館は17:30まで）
※会期中の毎週金曜日は20:00まで（入場は19:30まで）
※2月10日(火)は休館

主催：文部科学省／独立行政法人科学技術振興機構

協力：日本バーチャルリアリティ学会 アート&エンタテインメント研究委員会

問合せ：独立行政法人科学技術振興機構「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」領域事務所

〒113-0033 東京都文京区本郷4-2-8 フローラビル6F Tel 03-5805-1081 <http://www.media.jst.go.jp/>

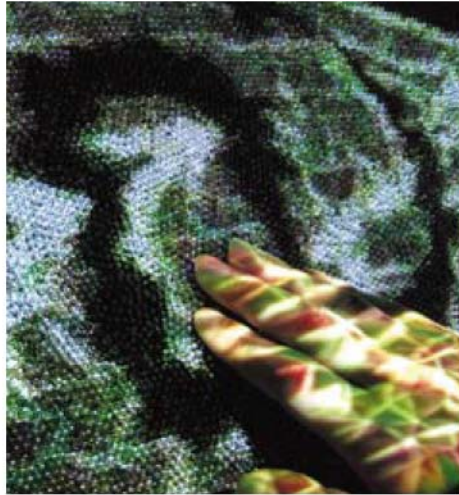
 文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

 独立行政法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

入場無料

デジタル技術がアートやエンタテインメントと結びつき、先端技術がもたらす表現の可能性はさらに高まっています。先端技術ショーケース'09では、科学と文化の融合を目指す研究者やアーティストの創造的な試みをご紹介します。今年のテーマは **NEXT Dimensions** です。「感覚(知覚)」の新次元を切り拓き、技術と感性が織りなす「表現の未来」を提案します。

触感を操る技術： 硬くなったり柔らかくなったり



Magnetosphere

テレビの画面もゲーム機も、ディスプレイはみんな硬いもの。でも、ここにあるディスプレイは、映るものに応じて柔らかくなったり、硬くなったりと自由に変化します。

申山久美子 (さががけ 首都大学東京)
協力: 笹田晋司、安田雅史、鈴木祐司 (日本電子専門学校)
http://www.sd.tmu.ac.jp/RDstaff/industrial_art.html

視覚を拡張する技術： 球体映像入出力システム



Panorama Ball Vision

「従来の映像メディア」は、なぜ四角いフレームで切り抜かれた空間の一部しか扱うことができないのでしょうか。フレームの外に、何か重要なものがあつたりもします。空間を切り抜かない、まんまるな球体映像入出力システムを開発しました。

橋本典久 (さががけ JST)
<http://zeroworks.jp/>

自己と向き合う技術： 拡張する影との共創表現

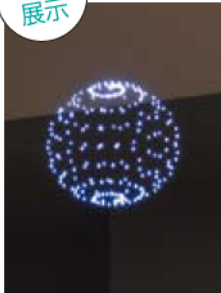


Shadow awareness

影と出会い、影でつながり合うことで、過剰な情報から解放されたところからだは、「いま、ここ」のわたしを深化させ、豊かなイメージと表現を紡ぎはじめます。

三輪敬之、渡辺貴文、板井志郎、飯田公司 (早稲田大学)
西洋子 (東洋英和女学院大学)
<http://www.miwa.mech.waseda.ac.jp/>

映像 展示



空中に描くデジタル映像

空中に浮かぶ星のような光が集まって束になり、さまざまな形を作り出す様子をビデオで紹介します。光のダンスや遊技、光が発するメッセージをじっくり見てみましょう。

CREST 斎藤チーム (代表者: 斎藤英雄)
<http://crest-3d-display.hvrl.ics.keio.ac.jp/>

映像 展示



High Resolution CG Simulation and Futuristic and Robotic Creature

超高精細映像に基づく生物的/物理的CGシミュレーション、例えば流体粒子の衝突・落下、クラゲの遊泳、多足生物の歩行等、またそれらの映像にリアルタイムに凹凸反応するGemoion Display、さらに深海・宇宙における人口生命的な探査ロボット造形の映像の研究を行っており、そのシミュレーション映像を紹介いたします。

CREST 河口チーム (代表者: 河口洋一郎)
<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/~yoichiro/>

Symposium

シンポジウム

「テクノロジーが支える日本のメディアアートの魅力」

世界的にも高い評価を得ている日本のメディアアートは、日本の優れた感性と高い技術力の双方に支えられています。どのような点に日本の独自性があり、どんな技術がどんな魅力を生み出してきたのか、今後、日本のメディアアートはさらにどう発展していくのか、日本を代表するメディアアートとテクノロジーの専門家が語ります。

●日時: 2009年2月9日(月) 16:00~17:30

●会場: 国立新美術館 講堂

●司会: 原島 博 東京大学大学院情報学環教授

●出演: 岩田 洋夫 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

橋本 典久 独立行政法人科学技術振興機構さきがけ研究者

森山 朋絵 東京都現代美術館学芸員・東京大学大学院情報学環特任准教授

